

## 令和3年度 第1回 春日井市高蔵寺リ・ニュータウン推進会議議事録

1 **開催日時** 令和3年8月4日（水） 午前10時00分～午前11時50分

2 **開催場所** 東部市民センター3階 多目的室

### 3 **出席者**

【委員】春日井市市政アドバイザー	服部 敦
愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科教授	田川 佳代子
名城大学理工学部建築学科教授	生田 京子
春日井商工会議所 副会頭	高柳 通
春日井市区長町内会長連合会副会長	吉田 和江
公募委員	福田 真悟
公募委員	水上 美晴
春日井市副市長	加藤 達也
高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社代表取締役社長	
	砂原 和幸
高蔵寺まちづくり株式会社取締役営業企画部長	石川 勇三
独立行政法人都市再生機構中部支社都市再生業務部部長	
	長安 圭治
医療法人社団喜峰会理事法人管理部長	磯村 延宏
【オブザーバー】	
国土交通省中部地方整備局都市調整官	嘉戸 重仁
独立行政法人都市再生機構中部支社住宅経営部団地マネージャー	
	中村 寿宏
【事務局】	
まちづくり推進部長	大島 常生
同部次長	尾関 健次
ニュータウン創生課課長	多和田 良造
課長補佐	矢川 将史
課長補佐	野々垣 孝洋
主査	河井 敦
主査	北浦 元紀
主査	鈴木 亜也子

主事 長江 貴史

都市政策課 課長補佐 松浦 武幸

※ 高蔵寺リ・ニュータウン計画に係る支援受託者

独立行政法人都市再生機構中部支社 松原 弘明

独立行政法人都市再生機構中部支社 村田 盛太郎

独立行政法人都市再生機構中部支社 都木 雅也

【傍聴者】 1名

#### 4 議題

(1) 高蔵寺リ・ニュータウン計画の推進状況及び令和3年度の予定について

#### 5 会議資料

資料1 春日井市高蔵寺リ・ニュータウン推進会議委員名簿

資料2 高蔵寺リ・ニュータウン計画の推進状況及び令和3年度の予定

資料2-1 高蔵寺ニュータウンの人口推移

資料2-2 団地再生によるモデル住宅地づくり：高森台スマートウェルネスの整備

資料2-3 ニュータウンの顔づくり：高蔵寺ゲートウェイの整備

資料2-4 旧小学校施設の活用による生活利便施設誘致：西のサブセンター整備

資料2-5 交流拠点をつなぐ快適移動ネットワークの構築・多様な移動手段の確保

資料2-6 ニュータウン・プロモーション

#### 6 議事内容

【事務局多和田】 本日の出席者数は全委員12名中12名が出席で半数以上の出席であり、本会議は有効に成立している。

また、平成29年度第1回の推進会議において、この会議は公開することに決定しており、本日の傍聴者は1名である。

今回、委員5名が変更となっており、第2号委員の春日井市区長町内会長連合会前副会長である星子委員が同会副会長の吉田委員に、第3号委員の公募委員が福田委員と水上委員に変更しており、新たに第5号委員の医療法人社団喜峰会 理事 法人管理部長の磯村委員が参加している。

【吉田委員】 (吉田委員挨拶)

【福田委員】 (福田委員挨拶)

【水上委員】 (水上委員挨拶)

【砂原委員】 (砂原委員挨拶)

【磯村委員】 (磯村委員挨拶)

【事務局多和田】 オブザーバーの独立行政法人都市再生機構中部支社住宅経営部団地マネージャーである糸川氏が中村氏に変更となっている。

【中村委員】 (中村オブザーバー挨拶)

【服部会長】 (議事録署名人として水上委員を指名)

## 1 議題 高蔵寺リ・ニュータウン計画の推進状況及び令和3年度の予定について

【事務局鈴木】 (資料2、2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-6に基づき説明)

【福田委員】 資料2-1に関連して、年代別の推移について、もし資料があれば確認させてほしい。

【事務局鈴木】 移動動向として、出生や死亡、転入や転出については、バックデータとして資料があるので、また提示させていただく。

【服部会長】 社会増減については、高蔵寺リ・ニュータウン計画のP25にもデータがある。これよりも細かいデータは事務局で確認して共有いただきたい。

【石川委員】 高蔵寺ニュータウンは中部地区でも最初のニュータウンであり、一番多く住んでいるのは団塊の世代の方々である。今は昭和20年生まれの人が75,6歳、男性の平均寿命81歳であることから、あと6年ぐらいで相続物件が急増する。今戸建て空き家率は約3%、戸建ての新規空き家は2年間で150戸ほど発生し、流動化数も150戸ほどであり、4年間の戸建て空き家は300戸ほどで推移している。個人的にはUR賃貸住宅や県営住宅は、空き家が増えても事業体であるURや県が考えていくので心配していないが、個人所有である戸建てエリアは急増する相続物件と買い手であるだろう子育て世代の購入が増やせるのか、気になっている。10年後の2030年に向かって子育て世代等相続物件を購入する者を増やして流動化を促進させる策が必要と考える、については戸建てエリア毎の年齢別人口を把握できる資料を作っていただきたい。戸建エリアの相続物件の急増は新たな空き家の街レタテル貼りにも繋がりがねずニュータウン再生のキーポイントとなる。

今回資料で示されている事業が相続物件急増に対して有効なのか、事業時間軸とマッチングしているのか、急いで検証し、対策しないと危険だと感じる。時間をかけてやっていくのもいいが、2030年を念頭に手遅れにもなれば、無駄な投資にもなりかねない。

【事務局多和田】 昨年度も人口推移については整理しているところではあるが、改めて時間軸との関係については、検証して、次回報告させていただく。

【生田委員】 交通関係のプロジェクトが進んでいて、その一つ一つは有用な実験をされていることがわかるが、高蔵寺ニュータウンの中の交通計画がどういう方向に向かおうとしているのか、何年も実験を継続している中で見えてきた手ごたえなども含めて解説いただきたい。

【事務局松浦】 高蔵寺ニュータウンの交通は、高蔵寺ニュータウンと高蔵寺駅を繋ぐ路線バス、高蔵寺ニュータウン内の7つの台（石尾台や高森台など）を結ぶサンマルシェ循環バスが代表である。ここでもう一つ注目しているのが、各台ごとの交通である。この交通は今までは必要とされてなかった。それは、自家用車があること、足腰が元気で自転車や徒歩で台内の移動は賄うことができていたためである。こうした3種類の交通について、今、見直しをしたり、マッチングをしたり、新しいものを作ったりしている。

一番小さい単位としては、ラストマイル自動運転であり、台内で完結する乗り物である。高蔵寺はアップダウンが激しいので、自宅から台内のスーパーや郵便局、クリニックに移動するのに、自家用車や自転車が使えないと困るのでラストマイル自動運転で台内の移動をサポートする。これは、高蔵寺ニュータウンから出る場合においても、バス停までの行き来を担保する必要があり始めたものである。最終的には7つの台の一つずつあるとよいが、そのためには住民が主体的に運行できるものが必要となり、プロのドライバーでなくても移動を確保できる、そういう仕組み作りを目指している。行政も当然サポートをするが石尾台では、月に1回程度会議を開き、自動運転を使って、台内の移動を持続可能なものにする仕組みづくりを行っている。

次に各台を結ぶ交通として、サンマルシェ循環バスや路線バスがあるが、コロナの影響により公共交通が大きな打撃を受けている。しかし、各台を結ぶ交通は必要であるため、タクシーとバスの中間にあたる乗り物で確保していきたいと考えている。サンマルシェ循環バスは年間15万人くらいの利用者がいるので、これを基礎にAIオンデマンド乗合サービスで、事業者ベースで採算に合うような仕組みがつかれないか試行している。行政が補助金を出す前に、料金の設定を変えてみたり、東海記念病院の方々の協力をいただいているように名古屋徳洲会総合病院や個別のクリニックから出資をお願いしたりしているところ。

最後に高蔵寺ニュータウンと駅を結ぶ基幹交通が必要になってくる。路線バスも大きな打撃を受けているが、春日井市のバス利用者の約半数はニュータウン由来のお客様であり、ニュータウンは非常に路線バスが発達している。何とかこれを維持していかななくてはならないため、名鉄バス株式会社と市都市政策課で、路線バ

スを使った新たな考えができないか模索を始めている。

【生田委員】 大変よく分かった。台ごとの交通、台同士の交通は、高齢者、免許返納の方をターゲットにしており、路線バスは通勤通学をサポートする内容になっていると理解している。いい話であり、高蔵寺リ・ニュータウン計画においても載っているが、高齢者など今後の利用者イメージや路線バス利用者の下降・上昇も含めて、まとめてもらえるとわかりやすい。

【服部会長】 交通は非常に重要な問題である。高蔵寺リ・ニュータウン計画の中で基本的な考え方は整理したが、より詳細に計画を進めていただきたい。

【砂原委員】 サンマルシェ循環バスは、コロナの影響なのか、4月に料金改定もあり、何が原因なのかを分析しているころではあるが、年々利用者は減少している。それに伴って会社の負担も増えてきており、どこまで維持できるのかも含め、ダイヤの見直しや料金の見直しなど、高蔵寺ニュータウンにどう貢献できるのか、会社として検討しないといけないと考えている。昨年、クーポンとの連動という実験をしても、うまく結果に結びついていないということであったが、春日井市とも知恵を出し合いながら、高蔵寺ニュータウンの足として、今後も継続できるようにしていきたいと思っている。

また、会社とは関係なく、石尾台で実験しているゆっくりミニバスについて、先月の13時半ごろに一度乗車した。その時は乗車が私一人であり、話を聞いても、あまり利用者がいない、決まった人しか利用していないということで、どのくらい広報しているのか心配に感じた。石尾台限定ということもあるのか、新聞や春日井市のホームページにも載っていない状況であり、ある程度人が乗らないと実験にもならないと思う。広報については、春日井市の方で頑張してほしい。

【服部会長】 AI オンデマンド乗合サービスと MaaS アプリについては、既存の交通をうまく使いこなそうというもので、周知が進めば利用いただけるようになると、あまり心配はしていない。一方でラストマイル自動運転は、新しい交通システムを作ることであり、これまでもいろんな団地で取り組んできたが、住民への負担や自治体への負担が大きく、継続しないというケースが多かった。まさに仕組みづくり、持続的な需要の確保が問題になってくると考えている。「実装化」と書かれているが、何を指すのか、石尾台だけのことか、実証実験と何が違うのかよくわからない。実装化というのは、ビジネスベースで継続的に運行できることなので、果たして実装化と呼べるのか、「実装化を見据えながら検討を進める」のか、本来に来年度から「実装化」をするのか、精査をしてほしい。まだ住民との議論が進んでいる段階だと思うので、検証・検討を進めて、また次回、もう少し内容がわかるもの

を提示いただきたい。

【吉田委員】

サンマルシェ循環バスは「金額が上がったので乗らなくなった」という声を聴いている。PTA に入っており、主婦の立場では馬鹿にできない会話だと思っている。

周知の仕方について、町内会や学校を上手く使ってほしい。学校なら子供のいる家庭は属しており、おたよりなどの発信が可能である。市では、子ども政策課や教育委員会など子供に関係する部署はたくさんあり、町内会も関わりをもっている。子どもを守るという観点や、三世代交流という観点から社会福祉協議会も活動している。家庭、学校、地域の三位一体はずっとうたわれているが、押沢台は社会福祉協議会も子育てサロンも最初に手を付けてきた。町おこしの祭りにも市長がよく来て、ゴミ捨て場などの意見をいただいている。押沢台小学校では、今年度、子どもの家をつくることができた。今までは、なかよしクラブのみで、16時の終了時間に帰れない子供は少し離れた石尾台小学校まで、移動する必要があった。1・2年生の小さな子供が地域の人に連れられて移動していたが、押沢台小学校に子どもの家ができることで、安全・安心な時間をより多く確保することができたのは、家庭にとっても良いことであつたと思う。この石尾台小学校への送りを立ち上げたものも地域である。地域の中には、元気な高齢者もいっぱいいて、免許返納した人いれば、免許を返納したい人もいる。そのため、AIを使った交通は進めていただきたいが、私自身石尾台の実験について知らなかった。防災フェスタや夏祭り、地域のお祭りのときには、小学校の運動場を開放しているので、その際に実際の乗り物を乗り入れて、取り組みを発信していかないといけないと思う。新聞やホームページへの掲載は発信側の一方的なことであつて、ホームページは存在自体知らない人も多いし、新聞も今は取っていない人が多い。そのため、人が集う場所に自ら飛び込んでいって、実物を見ていただいて、わかってもらうことが一番の周知になると思う。もう少し周知の仕方を考えていただきたい。

もう一点、空き家のことについて。空き家はどの地域にも存在していて、知らないうちに空き家になっている。町内会でも正確に空き家の把握はできていないと思う。以前、UR やグループふじとうでは、DIY によって、子どもたちや地域の人もしながら、自分たちの作ったものがそこで活用されて喜びに繋がる取組があつた。そこには元気な高齢者も参加して三世代交流にもなつていたので、そのような取組によって空き家の再利用ができるとよいと思う。押沢台には、オーナーが空き家を開放してくれている「みんなの家」があつて、利用料金 100 円を払うことで、利用できていた。コロナ禍では、市の施設は利用できなかったが、みんなの家を利用す

ることで、今町内会が進めているゴミステーションのボックス化の議論も止めることなく動くことができた。ある地域では、動物が発生して問題になっていたが、動物が空き家を住処にしていたなど空き家にしていてもいいことはないと思う。地域でも活動場所は求められているので、空き家の活用法の提案を市から家主にするなど、もう少し目を向けていただけるとよい。

**【事務局松浦】** 周知について、ご意見をいただいた。市内の牛山町でこの7月からAI オンデマンド乗合サービスに近い仕組みを始めた。これは地域の人と毎月1年半くらいかけて話し合いをしながら進めたものである。周知については、話し合いに参加していた社会福祉協議会、老人クラブ、子ども会の人々が、地域の交通は地域で守るという考えのもと、自ら率先して、それぞれの組織や仲間内に宣伝して下さり、多くの方が注目していただいた。行政としてやるべきことをやる、もっと地域の方に身近に知っていただく活動が必要だということは、今のご意見も踏まえ、日ごろから考えていきたい。一方で地域の足は地域で守らなければいけないということで、自家用車があるから今日も車で行くのではなく、たまにはバス利用することも心に留めておいていただきたい。

**【田川委員】** 資料2を見ていて、独居の高齢者、75歳以上の独居の高齢者、高齢夫婦の割合を入れていただく必要があると感じた。急激に75歳以上が増えて、就労人口がぐっと減ってくる。人生100年時代という中で、全ての方が、地域に身近に社会参加できる場、就労の場があることが重要かと思う。グラデーションのある就労の機会の場の確保に繋がるといいと思う。孤立しない地域を目指してほしい。

**【服部会長】** 高齢化に関する詳細なデータについては、さきほどの石川委員の意見にあった、戸建てエリアの人口構成がどうなっていくのか議論する重要なデータになるので、資料整理をお願いしたい。

**【石川委員】** 高齢者は健康寿命を延ばすということが重要であり、ニュータウンの場合は市全域に比べると健康寿命は長いので良い。問題は空き家を買ってくれる人をどう増やすかということ。グループふじとうで0～3歳の子供を持つ母親にアンケートを取ったところ、方面別では、志段味方面から来ている方が15%、東名高速の西側から来ている方が25%くらい。住宅の所有状況は、持ち家が6割強、住宅地の購入意欲が高いと考える0～3歳の子育て世代の多くが既に住宅を取得済みである。空き家を買ってもらうためには残りの3割弱を捕まえないといけない。今進めている施策が空き家の購入意欲に繋がっていくのか。旧西藤山台小学校の活用の市民アンケートでも、食品スーパーの声が断然多かった。サンマルシェがあっても、それでも身近な場所に食品スーパーが欲しいということ。子育て世帯を

含め、土地を買ってくれる人への生活利便施設の誘致、情報発信が大事だと考える。

**【服部会長】** SNS やプロモーションの意見に繋がっていくと思うので、今の意見を踏まえ検討いただきたい。

**【磯村委員】** 平成元年に東海記念病院をオープンしてから 30 年経過し、患者も高齢化してきている。10 年 20 年後には病院の建て替えを計画しないといけないため、いろいろと市場を調べている。あと 10 年はこのままの医療が続くと思うが、その後は圧倒的に人口が減った中で、果たして同じ場所で経営が成り立つのかも考えながらやっている。志段味地区は若い子育て世代が入ってきているイメージだが、高蔵寺ニュータウンは若い人が入ってきているイメージがなく、高蔵寺ニュータウンは将来的に単に人口を増やしたいのか、子育て世代を増やしたいのか、どっちなのか。今まで高蔵寺ニュータウンは団塊世代の憧れの街で、面積に対して人口が多かったが今後同じようになるとは思えず、極端なことを言えば、藤山台の団地に若い人が入ってくると思えない。空き家があるということは、その家の子世代が戻ってこないということ。結局魅力がないから他のところに住んでいるのではないか。例えば、団地なら壊して戸建てにするというまちづくりを目指すのか、外国人をたくさん呼んでくるのか、春日井市としてはどう考えているのか。

**【事務局野々垣】** 人口の目標については、計画にもあるように、令和 7 年度までは今の人口を維持していくことが一つの目標。その後は、駅周辺の整備や高森台で行われている団地再生の取り組みを着実に進め、魅力的な戸建てエリアを作っていくたり、また駅周辺整備を契機として周辺の再開発を誘導していくなどして、将来的には人口増加、子育て世代の割合増加に繋げていきたい考えである。また、プロモーションについても、駅周辺整備や高森台の団地再生、空き家の利活用の取り組みなど、うまくターゲットを絞りながらどういった発信をすれば効率よく届けたい人に届くのか、向こう 3 年くらいかけてプロモーションのアクションプランを作っていくたい。

**【服部会長】** 昨年度改定した高蔵寺リ・ニュータウン計画は、爆発的に人口が増えることは期待していないが、現状維持からちょっと増えていくことを目指していこうというものである。高齢化が進み人口が減っていく傾向の中で人口を維持しようということは、その差分は若い世代に入ってきてもらうというのが基本的な考え方。センター地区の周辺では、今の団地の姿を保ちつつ、少し離れたところでは、戸建て化していくというもので、例えば高森台の団地再生では、戸建て住宅もでき、そこにはまとまって若い世代が入ってくる。今までのイメージでは、高蔵寺が元

気なくなってしまうように思うかもしれないが、これからの取り組みによって、高森台のイメージが少し変わっていく、駅前が変わっていく、旧西藤山台小学校が変わっていく、こうしたフェーズの中で、若い世代が入ってくることによって、ニュータウンへの期待感が変わるのかどうかの転換点にいる。こうした取り組みの効果が発現していったとき、医療や福祉、交通が維持できるか、商業事業者からみて人口が減って、若い人が減って、商業が立ち行かなくなるという高蔵寺ニュータウンのイメージが変わっていくのかどうかである。そのため、プロモーションが効果的にできるかどうかも重要になってくる。まさにいま過渡期になるので、足りない点、進んでいない点を前向きに進めていきたい。

**【水上委員】** 自分の子どもが今中学生で、10年後にも高蔵寺に住んでもらいたいと思えるように、私たちが動けることがまだまだたくさんあるということが今日の会議に参加してわかり、わくわくしている。地域の中で自治会とか子ども会とかいろいろあると思うが、これからはこういった団体を巻き込まないといけない。高齢者に対して手厚くなるのは、これまでの感謝を込めてよいことと思うが、私たちが育ててきた子供たちが、戻ってきたい、移住してきたいと思えるようなものにするために、できることはまだまだある。私は、子育て支援の仕事をしていて、0～3歳の子どもを持つ母親によく会うが、今置かれている状況を忘れがちになっており、サービスがあれば活用はするが、そこから自発的に何かをするということには結びついていない。こうした町おこしの活動に、若いお父さんお母さんが関わっていけるとよいと思うので、SNSなどで発信する際には、そういった若い力を活用し、若い方も参加できるようなものが増えると、住んでいて楽しいし、住み続けたくなると感じた。

**【福田委員】** 中央台に、現在も住んでいる高蔵寺二世である。コロナ前に小学校の同窓会を開催した。仕事や結婚の都合もあると思うが、そのほとんどが高蔵寺に住んでいない。新しい人を招き入れるというのも大事なことだが、今住んでいる人、高蔵寺二世の人達がこの場に残ること、その子供たちが引き続き高蔵寺で暮らすというストーリーを考えていくことが必要だと思う。地元で残っている人は熱い思いがある。若い人同士のつながりとして、二世会みたいなものが構築されて、若い人達が次の未来を考えていくことができると思う。そういう仕組みづくりが行政の方からできると加速していくように思う。また、春日井市で起業したい創業したい若者を支援する制度があると、春日井市の中でもお店が増えてくると思う。なにか食べに行こうと思うとチェーン店しかなくて、街中や多治見市に行くことが多い。

空き家については、中央台は空き家が出て、区画を割ってすぐに売れる状況があり、人口が維持できている。一方で、これから高森台で戸建てが増えてくると、逆に中央台で売れなくなったり、値崩れを起こす危険性を感じており、プロモーションと宅地分譲のタイミングが重要だと感じている。

**【高柳委員】** 創業支援は商工会議所の方でやっており、商工会議所のホームページで紹介している。空き家対策については、市の空き家対策として、いろいろな施設として使った場合の助成金などが始まったばかりである。私は当初からこの会議に参加しているが、ハード面では、グループふじとうもできて、高蔵寺駅や旧西藤山台小学校活用も計画ができてきて、交通網もできて、高蔵寺リ・ニュータウン計画ができ取組が進んだことで、着実に良くなってきているのは実感してきている。東海記念病院、春日井リハビリテーション病院、名古屋徳洲会総合病院と入院やオペができる病院が地域に3つもあるのはなかなかないことだと思う。これからはもっとPRをしていけばもっと良くなると思う。ハード面ではできてきているので、逆にこれからは我々の努力次第かと思っている。

**【長安委員】** 高蔵寺ニュータウンには、約7,000戸の賃貸住宅があって、高蔵寺ニュータウンとURは運命共同体だと認識している。戸建ては権利が分かれていて、なかなか活用が難しいが、その点まとまった土地を一つの権利者で持っているのがURである。団地を失くしていくというマイナスの方に取られがちだが、用途を変えていくことで高蔵寺のイメージを変える、利便性を上げるように、高蔵寺に貢献したいと考えている。また、ソフトの取り組みとして、ウェルフェアと呼んでいるが、住民活動のきっかけになる取組も行っている。URがずっと関わり続けていくのは難しいが、住民に引き継ぐように活動している。またハード面については、土地を売ったり貸したりすることはできるが、別の事業を行うことは難しいので、別の方と連携しながらやっていきたいと考えている。

**【中村 オブザーバー】** 高森台の街区活用に関して事業者にはヒアリングをしているが、結果は厳しい状況である。これから子育て世代をどう誘致していくかを考える中で、立場を変え子育て中の親として考えるならば、住宅地を選ぶうえで、緑が多い、スーパーが近くにある、空気がきれい、健康的な生活ができるということが上位にあがってくる。高蔵寺に当てはめてみると、緑も多くて、アピタもあって、名古屋からの通勤圏でもある。あとは、近くで人が集まれるような場所があればいいなと個人的に思っている。例えば、人を呼べるような公園があればいいのでは。大阪城公園では、新しいカフェや子育て施設ができて、お母さん世代はお茶ができるし、子どもを遊ばせておける。こうして客層も変わってきている。こうした公園が高蔵寺にもでき、こ

れを皮切りに子育て世代が入ってくるようになると、高蔵寺も変わってくるように思う。

**【服部会長】** 一つはグルッポふじとうがそういったアクティビティやアメニティを提供する施設になって、若いママたちが来るようになった。まだまだ量的に充足していないので、イメージを変えるまでには至っていないかもしれない。今後駅前や旧西藤山台小学校で変わっていくところもある。子育て世代が期待を持てるようなアクティビティやアメニティを提供できる場所を増やしていく、行政から増やしていく、それが民間にも広がっていくようにしていく必要がある。

**【嘉戸  
オブザーバー】** グルッポふじとうには休日に行ったことがある。多世代が交流する様子を見て素晴らしい施設だと感じた。また体育館でバスケットをやっていて、そのにぎやかな声が聞こえてきたが、こういうものにもぎわいを印象付けるのに大きなポイントになっていると感じた。旧西藤山台小学校にも体育館や運動場があり、メインは中高生や地域のスポーツクラブが利用することになると思うが、高齢者や主婦などライトユーザーにも使いやすいものになるとスマートウェルネスにも繋がると思った。

**【加藤委員】** 高齢者の方の住環境の改善として、交通、商業、医療、福祉の問題と並行して、子育て世代の転入促進をどう取り込んでいくのかが、これからのニュータウンの大きな課題だと認識している。中でも交通問題について、市内を走るシティバスについてもダイヤの改正と路線の見直しをしている。これから高齢化が進むにつれて、高齢者の免許返納をお願いしていくところであるが、80歳過ぎの方の移動を考えていくことが大きな課題になってくる。そのため、今の実証実験も実装に向けて進めていきたいと考えている。その中で、最近、オンデマンド交通を始めた。過去にシティバスの運行を開始した際に、牛山地区では、始める前は要望が大きかったように思うが、始めてみると思ったより利用者が伸びないということがあった。利用者からすると公共交通はないよりはあった方がよく、でも利用するのは月に1回くらいというように考えられていると思うので、これからは利用促進策が重要と考えている。

空き家対策についても、解体補助や建て替え補助も充実させているが、PRが不足しているので、あらゆる機会にPRしていきたい。また、機会があれば二世の方が高蔵寺に住まない理由を分析してみたい。仕事の関係で東京や大阪に行っているのであれば仕方がないが、例えば名古屋に勤めていて、子ども時代を過ごした高蔵寺ではなく、春日井市内や志段味に住むのはなぜか、分析してみたら面白い結果が出るのではないかと思う。

高蔵寺も少しずつではあるがよくなってきていると自負しており、高蔵寺駅前も今年度中には基本方針ができて、グループふじとうには9月4日に新たに芝生広場がオープンして、セレモニーの後に大きなイベントも準備している。こうしたこともPRしていただくともに、いろいろなご意見をいただけるとありがたい。

【事務局多和田】 次回の会議は2月上旬の開催を予定している。

上記のとおり、令和3年度第1回春日井市高蔵寺リ・ニュータウン推進会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名する。

令和3年9月10日

会 長 服部 敦  
署名人 水上美晴